

東証市場再編における利益マネジメントと 事後パフォーマンス

岡田 立子

目 次

- | | |
|-------------|----------|
| 1. はじめに | 4. 追加的検証 |
| 2. リサーチデザイン | 5. 結論 |
| 3. 分析結果 | |

本稿の目的は、東証市場再編により誘発された利益マネジメントの背後にある経営者の意図や動機を捉えることにある。再編前後の裁量的会計発生高や業績の推移を分析した結果、経営者の機会主義的な意図による利益マネジメントである可能性が示された。さらに、そのような企業に対する投資家評価も低いことが分かった。全体として、市場再編時の利益マネジメントは、財務と株価パフォーマンスの双方に負の影響を与えたことを示唆している。

1. はじめに

これまでの利益マネジメント領域の先行研究では、公募増資や新規株式公開等の特定の企業イベントや、前年度利益や赤字回避など、経営者が関与して設定された利益ベンチマークに対する経営者行動やその経済的帰結を示した研究が主であった(注1)。しかし、外生的ショックや経営者が関与していない外部から設定された利益ベンチマークに対しての研究は十分に行われてこなかった。

本稿の目的は、市場再編における利益マネジメントとその後のパフォーマンスに与える影響を検証することで、外生的イベントにより誘発された、経営者の利益調整行動の背景にある目的や意図を捉えることにある。

会計上の裁量を利用した利益マネジメントは、二つの種類に分けられる。一つは、経営者が自己に有利な利益をもたらす目的で行われる、機会主義的な利益マネジメントである。他方は、情報提供の観点で行われる利益マネジメントである。こ



岡田 立子 (おかだ りつこ)

追手門学院大学経営学部講師。大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程。2017年 Bachelor of Commerce (The University of Melbourne major in Accounting and Finance)。2022年一橋大学大学院経営管理研究科MBA。2018～22年有限責任監査法人トーマツでベンチャー企業支援および海外展開支援業務に従事。2022年度証券アナリストジャーナル賞受賞。